

博物館だより



No.75

平成24年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

第17回

小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集!

みやこ町古墳フォーラム記念

楽しみがいっぱいの夏休み。小学生の皆さんは何をして遊びますか？水泳・キャンプに旅行やスポーツなどなど…考えるとわくわくしますね。

でもせっかくの長い夏休み、遊んでばかりじゃもったいないですよ。自分たちの住んでいる町や地域の歴史を調べたり、おじいちゃん・おばあちゃんから昔の話を聞いたりして、夏休みだからこそできる「歴史たんけん」にチャレンジしてみませんか？

みなさんが調べた歴史のことを作文にまとめて下さい。

◎小学校5・6年生なり誰でも応募できます。

◎自分たちの住む町や地域の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など「歴史」に関することなら内容は何でもOK。

◎作文は400字詰めの原稿用紙3枚から4枚程度にまとめてください。

応募作品の送付方法

下記の送り先へ個人または学校単位で作品を郵送または持参してください。作品には必ず、氏名と学年をはっきり書いてください。

お知らせ

知らせします！



〒824-0121
京都府みやこ町豊津1122-13
みやこ町歴史民俗博物館内
作文コンクール担当窓口

送り先

〒824-0121

京都府みやこ町豊津1122-13
みやこ町歴史民俗博物館内
作文コンクール担当窓口

締切日

平成24年9月28日(金)必着

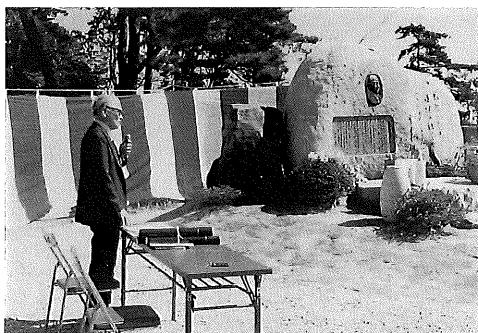
結果発表

平成24年10月下旬。最優秀賞・優秀賞には賞状・賞品(図書カード等)を、応募者全員に記念品を差し上げます。

表彰

受賞者は左記の(1)「みやこ町古墳フォーラム会場(豊津公民館)」で表彰します。

平成24年11月24日(土)



▲葉山嘉樹文学碑除幕式(みやこ町八景山・昭和52年)
あいさつをする鶴田知也(豊津出身・芥川賞作家)

プロレタリア作家
葉山嘉樹資料展

みやこ町豊津出身のプロレタリア作家・葉山嘉樹の資料展を当館展示室にて開催中です。

近年、葉山嘉樹に関する講演会の開催や書籍の刊行がなされ、没後60年以上を経て、その人生や作品が見直されつつあります。今回の資料展では、「堺葉山・鶴田顕彰会」が所蔵する葉山ゆかりの資料、また、最近発見された「中学校事件」自筆原稿などを展示し、作家・葉山嘉樹の足跡をたどっています。ぜひ、ご来館ください。

(2) **ヒント** 予防接種
(3) **ヒント** さしあわり
(4) **ヒント** 舞台設備
(5) **ヒント** 一つに集中

①

雅
花

舞
臺

舞
臺

④

舞
臺

③

⑤

舞
臺

◎答
え

(反対向きに見てください)

舞
臺

① 花
② 舞
③ 舞
④ 舞
⑤ 舞
⑥ 舞
⑦ 舞
⑧ 舞
⑨ 舞
⑩ 舞

《古文書解説コーナー》

藏持山の山岳信仰遺跡群

くら もち やま

—ふるさとの靈峰に初めて「學術調査」のメスが入った記録の紹介—

千年超の時を刻む靈峰・藏持山

みやこ町犀川地区で富士山型の美しい姿を見せている藏持山(標高478m)は、英彦山六峯の一つとして豊前地方における修驗道(山岳信仰)の主要拠点として知られています。

平安時代なかばに静謐上人によつて修驗寺院・宝船寺が開かれから、山の神への祈りの場や修行の場の整備が進められ、山中各所に関連の施設や礼拝地が調べられて一大山岳靈場となりました。

施設等の多くは千年を超えるの中に遺跡となつてしましましたが、上を覆う土を除けば旧状が明らかになる場も多いうえ、一部は今なお現役の祈りの場として利用されており、「眠る靈山」豊前屈指の靈場としての面目躍如たるものがあります。

そうした歴史を持つ藏持山ですが、山中という環境もあって信仰のためのものを除く開発とは無縁に過ぎてきたのですが、平成16・17の両年、周辺林地の林業振興の為計

した。特に奇(巨)岩・怪峰・洞窟など自然が織りなす「地形の妙」が顯れた場所はとりわけ大事にされ、こ

と豊前地方では「窟(いわや)」と呼ばれる洞穴(窟)地形を尊ぶ風が顯著でした。これはその形状が母の胎

内を連想させることから、そこに籠る行者たちが山の神々の力を借りて「生まれかわり」ができると信じられたためで、豊前地方の神々

(八幡神・権現など)の多くは窟を発祥地や力の源としています。藏持

保存のための発掘調査が、犀川町教育委員会(当時)によつて行われました。千年を超える時を経た靈山だけに、遺構は靈山ならではのものが確認されたほか、出土品は時の蓄積を物語る膨大な量(コンテナ約100箱分)にのぼりました。

また、これとは別に玉葱形の巨岩も見つかりましたが、これは【磐座】と呼ばれる神々が鎮まるための座

として整理作業を行い、先頃その成果を學術調査報告書「藏持山遺跡群」として刊行しましたが、これまで本格的な學術調査が行われていなかつた遺跡の調査成果だけに、その内容は発見の連続といつてよいものでした。

▲「藏持四十九窟」の一つとみられる窟遺構

▲磐座の裾などから出土した金銅製仏具類

▲寶珠の形をした巨岩=磐座遺構(北谷地区)

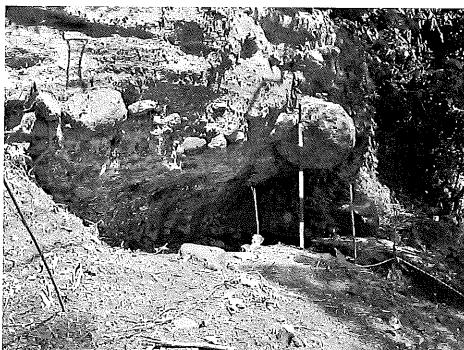
▲江戸時代の姿を留める宿坊の痕跡(基礎部分)

藏持山遺跡群の発掘調査

①磐座・窟遺構の再発見!

②膨大な奉納品(土器類)の堆積

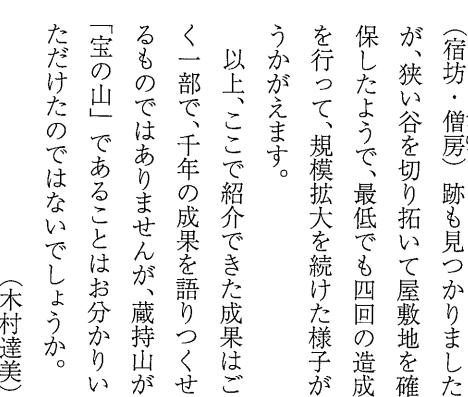
③拡張を続けた宿坊の跡



▲「藏持四十九窟」の一つとみられる窟遺構



▲磐座の裾などから出土した金銅製仏具類



▲江戸時代の姿を留める宿坊の痕跡(基礎部分)

に捧げられた土器類の破片が分厚く堆積していました。どの位堆積しているのか300m³(全体の約1%)ほどを掘つてみると厚さ約1mに

の破片が見つかりました。全体の量は推して知るべしといったところですが、最低でも600年近い時の

嘗みの成果と見られます。

15箱(約200kg)ほどの土器類

の破片が見つかりました。全体の量は推して知るべしといったところですが、最低でも600年近い時の

嘗みの成果と見られます。

く一部で、千年的成果を語りつくせるものではありませんが、藏持山が

保したようで、最低でも四回の造成を行つて、規模拡大を続けた様子がうかがえます。

以上、ここで紹介できた成果はごく一部で、千年的成果を語りつくせるものではありませんが、藏持山が

「宝の山」であることはお分かりいただけたのではないでしようか。